



# アートウィークくまもとより モンタナへ——熱烈発信。

熊本県とアメリカモンタナ州が姉妹提携して、早や10周年。  
今年、7月20日から26日まで、県内の各分野で活躍している芸術家たち9名が、  
モンタナ州ボーズマンにおいて文化交流事業  
「くまもとアートウィーク・イン・モンタナ」を計画しています。  
民間初の文化交流事業を目の前に、今、熊本→モンタナが熱く盛り上がっています。

9人の芸術家、  
それぞれの個性が  
絡み合って咲く

Kumamoto



県内の芸術家とは、川口義和(料理)、近藤賢子(木綿の服)、高光幸子(毛織の服)、亀井隆二(洋舞)、出田敬三(音楽)、平塚恵歌(生け花)、吉井謙二(金属・石)、高光俊信(ガラス・金属)、長野良市(写真)の九氏。「くまもとアートウィーク・イン・モンタナ」は、熊本・モンタナ間で、芸術分野の交流をすることにより、「新たな発見、刺激、そして発展を願って」計画された事業です。

会場は、現地の著名な彫刻家ジョン・バック、デボラ・バターフィールド夫妻の所有する乗馬用グラウンド。「神々と古代」、「中世と民衆」、「現代と自然」と

題したテーマで、九人それぞれの専門分野の絡み合ったステージが予定されています。一週間を通し、静的な展示・動的なショー、スライドレクチャー、また、うどん・豆腐・コンニャク造りの実演などの内容です。

今回は、民間で初めての芸術交流ということで、実行委員たちが資金集めに奔走。多くの企業、個人から支援を受けています。今、九名の在熊芸術家たちは、本番を目の前に、制作に余念がありません。

お互い、  
刺激しあいたい

Montana



「くまもとアートウィーク・イン・モンタナ」の会場を提供するジョン・バック、デボラ・バターフィールド夫妻が、打ち合わせのため四月来熊しました。「日本のいろんなものを見たい。感性に訴えるものすべてを持ち帰りたい」とバターフィールドさん。お二人が在熊の芸術家たちと会ったのは一年前。「彼らに会って、是非この人たちと仕事をした」と思いました。彼らは芸術家として

完成された人たち。今度彼らがモンタナにきたら制作過程から立ち会える。お互い刺激しあうこと。それをとても楽しみにしています」とバックさん。単に一緒にいるだけではなく、モノを作る時間を共有することで互いに理解しあえる、というのがお二人の考え。地元ではすでに芸術家たちからの問い合わせが殺到している。モンタナでは、この夏最大のイベントとなりそうです。

## 古代へのロマンをかきたてる装飾文様。



弁慶が穴古墳の装飾文様レプリカ

当館装飾古墳室の十二基のレプリカの中で、特に興味をそそられるのが「弁慶が穴古墳のレプリカ」である。それは、描かれた装飾文様が大変物語性に富んでいるからである。

ゴンドラ形の船先があがった舟に馬を積んだ絵、舟に積んだ楫にとまる天翔ける鳥、馬を積んだ船団など、被葬者の生前の活躍と当時の死生観を彷彿とさせる装飾が石室の壁を飾っている。太陽と舟と馬、幾何学文様、そして、古墳時代後期の巨石を使った石室の石組み、それらが一体となって古代へのロマンをかきたてる。

とくに注目されるのは、前室入り口左袖石に描かれた絵である。親馬と四匹の子馬を鞭で追う人物像、舟に乗った人物像等が描かれる。農耕社会であった古代のわが国では、珍しい牧畜風景を描いた装飾文様として貴重である。

熊本県立装飾古墳館／桑原憲彰



- 利用のご案内
- 開館時間 午前9:30から午後5:00まで(入館時間は4:30まで)
  - 休館日 毎週月曜日(当日が祝日の場合はその翌日) 年末・年始(12月25日～1月4日まで)
  - 常設展示観覧料
    - 一般 400円 団体(20人以上) (1人につき280円)
    - 大学生・高校生 250円 団体(20人以上) (1人につき180円)
    - 中学生・小学生 150円 団体(20人以上) (1人につき100円)
  - \*義務教育修学以前の児童は無料です。
  - \*特別展の場合は、別途に定めます。
- 交通機関のご案内
- 交通機関(バス)
    - 熊本交通センター→山鹿(新道経由 米田駅前バス停下車徒歩20分)
    - 山鹿→玉名(米ノ岳経由 城ヶ鼻バス停下車徒歩15分)
    - (東郷経由 長岩バス停下車徒歩20分)